ガイドライン作成 疾患統括者会議

日時：　平成 27 年 7 月 4 日（土）　11:00～16:00
場所：　ステーションコンファレンス東京 6F
　　東京千代田区丸の内１丁目７-12　サピアタワー
　　TEL 03-6888-8070

出席者（敬称略）
窪田正幸（研究代表者）、米倉竹夫（総排泄腔遺残症統括者）、矢内俊裕（総排泄腔外反症統括者）、河野美幸（Mayer-Rokitansky-Küster-Häuser 症候群統括者）、藤野明浩（日本直腸肛門奇形研究会）、荒井勇樹（事務局）

議事次第
１．開会の挨拶（窪田）
２．本年度の活動方針の検討
１）本年度のガイドライン作成は、Minds「診療ガイドライン作成マニュアル」ver1.1 (201407.23)に準拠して作成し、各疾患統括者が各疾患のガイドライン作成を指導する。ガイドライン作成のスケジュールを審議し、8 月 29 日の全体会議でクリニカルクエスチョン（CQ）の最終案を確定し、12 月中にシステマティックレビュー（SR）を終了し、平成 28 年 1 月中にガイドラインを作成する予定が確認された。
２）次の点を個別討論し、内容の確認をおこなった。
作成目的の明確化、作成主体の決定、事務局・診療ガイドライン作成組織の編成、スコープ作成。
３）リンパ管腫のガイドライン作成で、作業手順に造形の深い藤野先生に、CQ 作成、SR に関する注意点等に関して説明を戴いた。

12:20～12:50：(昼食)

３．スコープの作成
１）総排泄腔遺残症に関するタイトル、目的、トピック、想定される利用者・利用施設、既存のガイドラインを審議し、重要臨床仮題、ガイドラインがカバーする範囲、クリニカルクエスチョンリストの内容を検討し、スコープ案を作成した。
２）総排泄腔外反症に関するスコープ案を作成した。
３）Mayer-Rokitansky-Küster-Häuser 症候群に関するスコープ案を作成した。

４．今後の予定
１）各グループでメイルまたは班会議を行い、スコープの完成を目指す。
２）9 月から SR を開始する予定。

平成 27 年度 総排泄腔遺残症 ガイドライン作成会議

日時：平成 27 年 8 月 5 日　19:00～22:00
場所：大阪 CIVI 研究センター（新大阪 NLC ビル 5･6･7F）
　　大阪市東淀川区東中島 1 丁目 19 番 4 号
　　TEL 06-6160-5888

出席者（敬称略）：窪田正幸（研究代表者）、米倉竹夫家、田附裕子（総排泄腔遺残症統括者）、藤野明浩（日本直腸肛門奇形研究会）、家入里志、川野孝文、吉野薫

１．ガイドライン作業組織の役割分担決定
　次の如く、役割分担を決定した。

統括委員会（総排泄腔遺残症）

窪田　正幸	新潟大学／小児外科	研究総括
米倉　竹夫	近畿大学／小児外科	グループ統括
藤野　明浩	慶応大学／小児外科	ARM 関連研究統括

ガイドライン作成グループ

家入　里志	鹿児島大学／小児外科	代表、診断
田附　裕子	大阪大学／小児外科	分類
藤野　明浩	慶応大学／小児外科	治療
上野　滋	東海大学／小児外科	治療
林　祐太郎	名古屋市立大学／泌尿器科	予後
吉野　薫	愛知保健小児総合医療センター／泌尿器科	予後
川野　孝文	鹿児島大学／小児外科	

システマティックレビューチーム

青井　重善	京都府立医科大学／小児外科
田原　和典	国立成育医療研究センター／臓器・運動病態外科部
荒井　勇樹	新潟大学／小児外科

２．総括会議の報告（藤野）
　前回の総排泄腔遺残症統括会議の決定事項を報告し、今後の作業スケジュールを確認した。

３．CQ 案の作成
　CQ 案を検討し、スコープ、重要事項の見直しを行い、CQ 案の精緻化を行った。

平成 27 年度 第一回班全体会議

日時　：　平成 27 年８月 29 日（土）　11:00～16:30
場所　：　東京八重洲ホール７F
　　東京都中央区日本橋 3 丁目 4 番 13 号
　　TEL 03-3201-3631

出席者（五十音順、敬称略）
相野谷慶子、青井重善、天江新太郎、岩井 潤、上野 滋、瓜田泰久、大山俊之、大野康治、金森 豊、金子一成、金子徹治、木下義晶、窪田正幸、河野美幸、新開真人、杉多良文、田附裕子、田原和典、林 祐太郎、尾藤祐子、藤野明浩、望月響子、矢内俊裕、山内勝治、山口孝則、山崎雄一郎、吉野 薫、米倉竹夫

議事次第
１．現在までの進捗状況報告（窪田）
　平成 26 年度の全国集計結果は、5 月の報告書にまとめた。
　本年度はガイドライン（GL）作成を行う。7 月 4 日の疾患統括者ミーティングで、スコープ案の作成を行い、その後各疾患グループで審議を行った。本日の会議で、クリニカルクエスチョン（CQ）の作成を行いたい。
　網羅的文献検査結果は、窪田と木下でチェックした。
２．総排泄腔遺残症の経過説明（米倉、田附）
　8 月 5 日に CQ 設定を中心に総排泄腔遺残症に関する GL 作成会議を行った。
　アルゴリズムを再検討し、いくつかの案を作成した。
　スコープと重要臨床課題、CQ1～6 についての問題点を説明した。
３．総排泄腔遺残症の経過報告（矢内）
　スコープと重要臨床課題、CQ1～6 について説明した。
　多くの課題を検討した。
４．MRKH 症候群の経過報告（河野）
　スコープと重要臨床課題、CQ1～6 について説明があった。
　ある程度絞って 2,3 個にした方が良いと考えている。
５．システマティックレビュー（SR）の説明と文献の検索に関して（木下）
　CR の作業手順に関しての説明があった。現在まで検索した文献では、ほとんどの文献が症例集積のレベルで、二重盲検試験や前方視的ランダム化を行った論文はなかった。
６．CQ に関する意見交換
　文献に関しては、網羅的文献検索を行っているが、CQ が決定した段階で、CQ 毎の文献検索を依頼し、網羅的文献検索と合わせて文献検索を行うことが確認された。
７．各グループでの CQ の検討
　各疾患グループに分かれて、CQ の内容を討議し、最終的な CQ を決定した。また、SR チ

ームの人数が少ないため、泌尿器科より 4 名、産婦人科より各 2 名新たに追加召集することとした。

平成 27 年度 SR チーム全体会議

日時：平成 27 年 12 月 23 日（水）　15:00～19:00
場所：東京八重洲ホール　101
　　東京都中央区日本橋 3 丁目 4 番 13 号
　　TEL：03-3201-3631

出席者（敬称略）：窪田正幸（研究代表者）、木下義晶（システマティックレビュー（SR）統括者）、荒井勇樹、金 宇鎮、田附裕子、松野大輔、望月響子、矢内俊裕、山内勝治（SR チーム）、

議事次第
１．開会の挨拶（窪田）
２．各 CQ に対する PICO 表の検討（木下）
　１）総排泄腔遺残症　CQ1～CQ6
　２）総排泄腔外反症　CQ1～CQ6
　３）Mayer-Rokitansky-Küster-Häuser 症候群　CQ1～CQ5
3. 今後の方針について（窪田、木下）
　各 CQ に対する PICO 表の内容が確認を確認した。SR まとめを年内に作成し、ガイドラインチームによる推奨文の作成を行い、平成 28 年 1 月 11 日の全体会議で推奨の Delphi 投票を行う。

平成 27 年度 ガイドライングループ会議

日時：平成 28 年 1 月 11 日（月）　11:00～16:00
場所：東京八重洲ホール　301 号室
　　東京都中央区日本橋 3 丁目 4 番 13 号
　　TEL：03-3201-3631

出席者（五十音順、敬称略）
赤澤公平、天江新太郎、荒井勇樹、家入里志、石倉健司、岩井 潤、上野 滋、
大須賀 穣、大野康浩、大山俊之、金森 豊、金子徹治、川野孝文、木下義晶、
窪田正幸、甲賀かをり、河野美幸、新開真人、杉多良文、田附裕子、原田涼子、林 祐太郎、
尾藤祐子、藤野明浩、矢内俊裕、山崎雄一郎、吉野 薫、米倉竹夫、

議事次第
１．進捗状況報告（窪田）
　スライドを用いて推奨文作成までの経過報告があり、各作業チームの多大なるご尽力により、進捗状況はほぼ予定通りであることが報告された。
２．各 CQ 毎の推奨文 Delphi 投票（木下、各疾患担当委員長）
　まず、Deplphi 投票にあたって、カットオフ値の設定を協議し、6 割以上の賛成をもって、決定することとした。
３．総排泄腔遺残症 CQ について
　米倉統括委員長より作成した CQ の概要説明があった。
　CQ１～６の推奨草案に関する決議を多数決にて行ったが、CQ2: 病型（共通管長）による術式選択は、月経血流出路障害を改善するか？、CQ3：病型（共通管長）による術式選択は、尿排泄障害を改善するか？に関しては、CQ を検討できる論文がなく、推奨文の作成にいたらなかった。
４．総排泄腔外反症 CQ について
　矢内総括委員長より作成した CQ の概要説明があった。
　CQ１～６の推奨草案に関する決議を多数決にて行ったが、CQ2：早期膀胱閉鎖は膀胱機能の獲得に有効か？、CQ4:膣･子宮再建術は２次性徴が始まった段階で施行すべきか？、に関しては、CQ を検討できる論文がなく、推奨文の作成にいたらなかった。また、総排泄腔外反症の CQ1：性の決定は染色体に基づくべきか？の推奨文「性の決定は染色体に基づいて行われることを提案する。しかし、症例に応じて総意のもとに検討する必要がある。」に関しては、強く推奨するまたは弱く提案するの意見が委員間で二分され、決定できなかった。
５．Mayer-Rokitansky-Küster-Häuser 症候群 CQ について
　河野総括委員長より CQ に関する概要の説明があった。
　CQ１～5 の推奨草案に関する決議を多数決にて行ったが、CQ1：確定診断のために腹腔鏡検査は必要か？、CQ2：鎖肛合併症例（type II）での小児期の膣形成術は有用か？、

CQ５：妊娠・出産は可能か？に関しては、CQ を検討できる論文がなく、推奨文の作成にいたらなかった。

６．推奨文の作成

CQ の推奨草案の Delphi 投票が終了し、推奨文作成のタイムスケジュールが確認された。

研 究 班 名 簿

先天性難治性稀少泌尿生殖器疾患群(総排泄腔遺残(総排泄腔外反)(MRKH 症候群))における
スムーズな 成人期医療移行のための分類診断治療ガイドライン作成（H26-難治等(難)-一般-068）

	氏　　名	所　属　研　究　機　関	職　　名
研究代表者	窪田　正幸	新潟大学医歯学系小児外科学	教授
研究分担者	荒井　勇樹	新潟大学医歯学総合病院小児外科	助教
	赤澤　宏平	新潟大学医歯学総合病院医療情報部	教授
	上野　　滋	東海大学医学部医学科外科学系小児外科学	教授
	藤野　明浩	慶應義塾大学医学部外科学（小児）・小児外科	講師
	矢内　俊裕	茨城県立こども病院小児外科・小児泌尿器科	部長
	加藤　聖子	九州大学大学院医学研究院産科婦人科	教授
	江頭　活子	九州大学大学院医学研究院産科婦人科	助教
	木下　義晶	九州大学病院総合周産期母子医療センター小児外科学	准教授
	宮田　潤子	九州大学大学院医学研究小児外科	助教
	大須賀　穣	東京大学医学部付属病院女性診療科	教授
	秋野　なな	東京大学大学院医学系研究科産婦人科	届出研究員
	金森　　豊	（独）国立成育医療研究センター臓器・運動器病態外科部外科	医長
	田原　和典	（独）国立成育医療研究センター臓器・運動器病態外科部外科	医員
	石倉　健司	（独)国立成育医療研究ｾﾝﾀｰ器官病態系内科部腎臓ｻｶﾏﾁ･膠原病科	医長
	長谷川雄一	(独) 国立成育医療研究センター臓器・運動器病態外科部泌尿器科	医員
	天江新太郎	社会福祉法人　陽光福祉会　エコー療育園診療部 医科	科部長
	相野谷慶子	宮城県立こども病院泌尿器科	部長
	新開　真人	地方独立行政法人神奈川県立病院機構神奈川県立こども医療センター外科	部長
	望月　響子	地方独立行政法人神奈川県立病院機構神奈川県立こども医療センター外科	医長
	山崎雄一郎	地方独立行政法人神奈川県立病院機構神奈川県立こども医療センター泌尿器科	部長
	金　　字鎮	地方独立行政法人神奈川県立病院機構神奈川県立こども医療センター泌尿器科	医長
	田附　裕子	大阪大学大学院医学系研究科外科学講座　小児成育外科学	准教授
	家入　里志	鹿児島大学学術研究院医歯学域医学系小児外科	教授
	尾藤　祐子	神戸大学医学部附属病院小児外科	特命准教授
	河野　美幸	金沢医科大学小児外科	教授
	金子　一成	関西医科大学小児科学講座	教授
	林　祐太郎	名古屋市立大学大学院医学研究科腎・泌尿器科学分野	准教授
	山口　孝則	福岡市立こども病院泌尿器科	科長
	米倉　竹夫	近畿大学医学部奈良病院小児外科	教授
	山内　勝治	近畿大学医学部奈良病院小児外科	診療講師
	岩井　　潤	千葉県こども病院小児外科	診療部長
	松野　大輔	千葉県こども病院泌尿器科	医長
	吉野　　薫	あいち小児保健医療総合センター泌尿器科	部長
	久松　英治	あいち小児保健医療総合センター泌尿器科	医長
	大野　康治	大分こども病院外科	副院長
	杉多　良文	兵庫県立こども病院泌尿器科	部長
	青井　重善	京都府立医科大学小児外科	学内講師
	瓜田　泰久	筑波大学臨床医学系小児外科	講師

研究協力者	大山　俊之	新潟大学医歯学総合病院小児外科	助教
	川上　　肇	茨城県立こども病院小児外科・小児泌尿器科	医長
	甲賀かをり	東京大学医学部付属病院女性診療科	准教授
	川野　孝文	鹿児島大学学術研究院医歯学域医学系小児外科	医員
	金子　徹治	東京都立小児総合医療センター臨床研究支援センター	係長
	原田　涼子	東京都立小児総合医療センター腎臓内科	医員